

Civil Society Forum

Vol.10



CONTENTS

- 第12回東アジア市民社会フォーラム開催報告 1
- CSOs Across the World: ブラジル・アマゾン
地域における日系福祉団体の取組 5
- CSOs Across the World: Tajikistan
National NGO Association 7

■ 第12回東アジア市民社会フォーラム開催報告

1. はじめに

2021年11月5日、第12回東アジア市民社会フォーラム「ソーシャルワークにおける市民社会参画の政策とその実践」が、中国国際民間組織協力促進会(CANGO)の主催(JIVRIは公益法人協会と共に日本側オーガナイザーとして参画)により開催された。2019年に開催された第10回フォーラムまでは、毎年3カ国が持ち回りで現地開催してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が起こった昨2020年以降、現地での開催が困難となり、昨年の第11回フォーラムでは、ビデオ収録した映像を公開する形式が取られた。

今回の第12回フォーラムにおいても、中国での現地開催を断念せざるを得ず、オンライン開催という形を取る事となった。当日は、非営利法人関係者、学識経験者、社会福祉関係者など、ネット経由で中国から90名、韓国から35名、日本から15名、計約140名の参加があった。

2. 各国からの挨拶

日本側実行委員会委員長の山岡義典氏からは、「ソーシャルワークは、社会的に困窮している人の幸せな生き方を支える仕事である。各国で異なる困窮者の実態やその救援の方法や制度といった社会的実践の一端を知ることが、これからの3カ国の市民社会の発展にとって貴重なものとなる」との挨拶があった。中国並びに韓国側からは、中国国際民間組織協力促進会の王香奕氏、北京師範大学の李家永氏、韓国ボランティアフォーラムの南英燦氏からそれぞれ挨拶があった。

3. 基調講演

次に、「日中韓3カ国のソーシャルワークにおける市民社会参画の政策とその実践」をテーマに各国から基調講演があった。慶應義塾大学の堀田総子氏から「共生社会とは何かー政策的潮流と支援のかたち」と題して報告があり、その中で、地域共生社会について『制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や領域を超えて「丸ごと」繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに

【プログラム】

◇開会挨拶

- (中国) 李家永／北京師範大学人文社会科学高等研究院 副院長
 王香奕／中国国際民間組織協力促進会 副理事長兼事務局長
 (日本) 山岡義典／東アジア市民社会フォーラム実行委員会 委員長
 (韓国) 南英燦／韓国ボランティアフォーラム 会長

◇基調講演「日中韓3カ国のソーシャルワークにおける市民社会参画の政策とその実践」

- (中国) 関信平／南開大学社会政策学部 教授「中国におけるソーシャルワーク制度の構築」
 (日本) 堀田聰子／慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授「地域共生とは何かー政策的潮流と支援のかたち」
 (韓国) 趙 東成／京仁放送 会長「ESGからCSCへの変化・発展に向けて」

◇事例報告「ソーシャルワークのオプション分野における参画方法、参画メカニズム、参画効果」

- (中国) 喬東平／北京師範大学人文社会科学高等研究院 教授「中国の児童福祉サービス：ソーシャルワーカーの参画方法と業務体制」
 (日本) 湯浅 誠／認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長「市民によるソーシャルワークこども食堂の事例から」
 (韓国) 尹 鐵／SK SUPEX追求協議会SV推進チーム「ポストコロナ時代 企業の社会貢献」

◇パネルディスカッション

- (司会) 徐月賓／北京師範大学人文社会科学高等研究院 教授
 (中国) 李曉鳳／深圳大学法学院 教授
 関東生／広州北大博雅賓ソーシャルワークリソースセンター センター長
 (日本) 堀田聰子／慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授
 湯浅 誠／全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長
 (韓国) 郑鍾和／三育大学社会福祉学部 教授
 陈喜善／慶熙大学公共大学院 客員教授

◇閉会式

- (中国) 徐月賓／北京師範大学人文社会科学高等研究院 教授
 黄浩明／深圳国際公益学院 副院長
 (日本) 雨宮孝子／公益法人協会 理事長
 (韓国) 南英燦／韓国ボランティアフォーラム 会長

創っていく社会』と定義し、その地域共生社会の実現に向けた改革が急務となっているとした。その上で、地域共生社会をめぐる議論、各地で生えてきた活動の事例、さらには学識経験者等から構成される研究班が試みた「見える化」の取り組みの成果が紹介された。

中国側からは、南開大学の関信平氏により、「中国におけるソーシャルワーク制度の構築」と題して、中国における①改革開放後のソーシャルワーク再生の背景と初期段階の動き、②2006年以降のソーシャルワークの人材育成、③ソーシャルワーク制度の構築過程と関連政策の整備、④今後のソーシャルワーク制度の構築に向けた主な課題、について紹介があった。

韓国側からは、京仁放送の趙東成氏から、「ESGからCSCへの変化・発展に向けて」と題して、企業による社会貢献の移り変わり、評価される企業および経営の在り方についての紹介があり、企業の社会的責任を果たす手段としてのESG投資、そして今後新たな社会の在り様としてCSC(Civil Society Choice)の推進の重要性について報告があった。

4. 各国からの事例報告

「ソーシャルワークのオプショナル分野における参画方法、参画メカニズム、参画効果」をテーマにした事例報告では、日本側からは全国こども食堂支援センター・むすびえの湯浅誠氏から「市民によるソーシャルワークこども食堂の事例から」と題して報告があった。同報告では、こども食堂の設置の経緯、こども食堂の現状およびあり方についての紹介があり、また子ども以外も対象とすることで世代を超えた地域コミュニティの交流の拠点としての役割も担っている現状が紹介された。

中国側からは北京師範大学の喬東平氏から「中国の児童福祉サービス：ソーシャルワーカーの参画方法と業務体制」と題して報告があり、同氏が2018年から2019年に実施した実地調査で明らかとなった中国における児童福祉サービスの現状およびソーシャルワーカーの参画状況について紹介された。

韓国側からは、SKグループの尹鐵氏から、同グループが実施する社会貢献事業「食事を一緒にする温(ON)タクトプロジェクト」の紹介があった。SKグループは、同プロジェクトの一環で、コロナ禍で収入減にさらされている個人事業主(食品・食材提供店)に弁当製造の業務を委託し、その弁当を、欠食を余儀なくしている個人に無料で届ける事業を展開中とのことで

ある。

5. パネルセッション

北京師範大学の徐月賓氏の進行のもと、パネリストとして、日本側から慶應義塾大学の堀田聰子氏、全国子ども食堂支援センター・むすびえの湯浅 誠氏、中国側から深圳大学の李曉鳳氏、広州北大博雅賓の関東生氏、韓国側から三育大学の鄭鍾和氏、慶熙大学の陳喜善氏が参加してパネルセッションが行われた。「各国におけるソーシャルワークの専門的かつ標準的な発展の道筋と課題」および「ソーシャルワーク組織の効果的な運営に関する事例経験の共有」をテーマに意見交換が行われた。

6. 閉会挨拶

閉会の挨拶では、東アジア市民社会フォーラムの日本側主催団体を代表し、雨宮理事長から挨拶があった。各国からの基調報告、事例報告についての感想に加えて、「各国の発表は、どこから見るとかで相違しているように見えるが、目指す方向は一致していた。今後も我々3か国は、より良い市民社会組織の発展のために、共に努力していこう」と締めくくった。中国側からは、北京師範大学の徐月賓氏、深圳国際公益学院の黄浩明氏、韓国側からは韓国ボランティアフォーラムの南英燦氏がそれぞれ挨拶を行った。

CSOs Across the World

ブラジル・アマゾン地域における 日系福祉団体の取り組み

アマゾニア日伯援護協会
事務局長 太田 勲

アマゾニア日伯援護協会は、ブラジル北部パラ州の州都ベレンにある日系福祉団体です。1965年1月26日「アマゾニア日本人移民援護協会」として発足し、1974年6月に現在の「アマゾニア日伯援護協会」に名称を変更、2015年に協会創設50周年を迎えました。

当協会は、パラ州を中心としたアマゾニア全地域を対象とし、日系人およびブラジル人を対象とした福祉と医療事業を展開しています。ブラジル、パラ州、ベレン市、トメアス郡、アナニンデウア郡から公益団体として認可されており、伯国福祉審議会(CNAS)より慈善団体として認可されています。

当協会はアマゾニア病院を運営しており、もともとは1962年に日本海外協会連合会の小さな診療所（医師1名、看護師1名、事務員1名）として発足し、1965年に当協会がその診療所を引き継ぎました。現在のベッド数は一般病棟79床、集中治療室20床、診療科目は33科目にわたり、専門医・協力医合わせて70名、看護師・職員307名が保健衛生の向上に努めています。ベレン地域の中核を担う病院として、日系・非日系を問わず、地域の医療に貢献しています。



アマゾニア病院

この度、ボランティア活動国際研究会の機関誌への寄稿の機会をいただいた白石代表が当院で出生しております。ご両親の転勤でベレン市で数年、その後ベレン市から陸路230キロ、アマゾン開拓前線基地のトメアスー移住地に移り、小学校入学時に日本に帰国されたと伺っています。

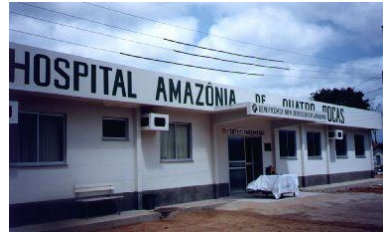
そのトメアスーにも当協会が運営している十字路アマゾニア病院があり、アマゾン奥地在住者の医療・健康管理に大きく寄与しています。当院は、診療室、手術室、分娩室、臨床検査室、歯科室、緊急外来を備えています。

福祉事業としてはアナニンデウア市にある厚生ホームの運営があり、高齢者、身体障害者、その他の理由で居宅生活が困難な方が安心して暮らせる生活の場を提供しています。厚生ホームには、日本語の通じるスタッフが常駐し、食事は栄養士によりカロリー計算された日本食を提供しているアマゾン地域唯一の日系福祉施設です。安心して暮らせる「生活の場」を提供すると共に、地域の老人福祉に貢献できる施設を目指しています。

また、奥地巡回診療も当協会が実施する福祉事業の一つであり、医療環境に恵まれない地域、アカラ、モンテアレグレ、サンタレン、アバエテツウバなどの奥地日系移住地を巡回診療し、保健衛生知識の普及と予防知識の普及に努めています。

その他にも、高齢者教養講座「ことぶき教室」を月1回開講し、ブラジル人高齢者向けの生きがい講習会も週2回実施しております。

日本と全く異なるアマゾンの気候。長旅の疲れから体調を崩すこともあると思います。そんなときにはアマゾニア日伯援護協会が運営するアマゾニア病院にいらしてください。心からお待ちしております。



十字路アマゾニア病院



厚生ホーム

CSOs Across the World

Tajikistan National NGO Association

Shamsiddin Karimov, Ph.D.

Head of the Tajikistan National NGOs Association

It is a great pleasure and honor to introduce a national platform for NGOs in Tajikistan through the magazine published by Japan International Institute for Volunteering Research.

I am a leading expert in Tajikistan in the area of Civil Society with particular attention to CSOs/NGOs. As a researcher, I've finished my second Ph.D. dissertation on Political Science entitled "The Role of NGOs in Formation of Civil Society in Tajikistan" to be defended in 2014. I've published more than 20 monographs and brochures, about 50 scientific articles related to formation and development of civil society in Tajikistan. The first time I met with president of JIVRI, Mr. Shiraishi, was back in 2013, and he was a vice chair of Affinity Group of National Associations, a world alliance of national associations established by CIVICUS, at that time. Mr. Shiraishi is an advisor of our association since 2016 and supporting us through information sharing.

Tajikistan National NGOs Association (TNNGOA) was established in 2008 based on the recommendations from delegates and representatives of the first National NGO Forum held in May 2008. Since its inception, the organizations has been instrumental in promoting partnership between CSO and government institutions through organizing dialogues, forums, workshops and conferences. TNNGOA is working to bring CSO and government institution together to improve democracy, accountability, transparency, good governance in Tajikistan. To date, the organization has organized and conducted numerous events and round of consultations with CSOs, government institutions and development partners.

TNNGOA's main goal is to consolidate and coordinate all CSOs activities based on an effective and workable mechanism including, networking among target institutions, fostering a strong and effective collaboration between government and CSOs in addressing social and economic problems in Tajikistan. This is done through dissemination and use of best practices, achievements and strengths towards sustainability and professionalism of Tajikistan CSOs as well as implementing the decision of the Tajikistan National NGO Forums, particularly those relevant to the National NGO Program Development, Code of Conducts and Strategy Development. Currently, more than 350 members, the most active and effective NGOs throughout the country have joined the Association. TNNGOA has a strong network of local partners located in different parts of the country making the association able to cover the entire country.

Below are some of the projects implemented in the past few years by TNNGOA:

- The Fifth Tajikistan National NGO Forum entitled “The Tajik NGOs: challenges and perspectives of social partnership” held in 2019. The proposed activity will identify challenges that existing NGOs face currently, after 25 years of independence. Achievements and shortcomings, strong points and weaknesses of NGOs during the reporting period (after conducting the last fourth Tajikistan National NGO Forum in 2012 and the First Parliamentary Hearing on State of Civil Society in Tajikistan in 2017) as well as impact/implementation of the National NGO Development Program will be discussed and analyzed. Prior to the Forum the NGO mapping will be completed. The purpose is enabling environment and expanding civic space through analyzing achievements and shortages in this regard and focus on the key role of the civil society and its institutions in the development efforts of the country.
- Democracy Dialogue entitled Why Do I Need Democracy? Supported by CIVICUS, the Democracy Dialogue held on July 28, 2018 in the facility of Rudaki District's Creative Center for Children. About 100 participants attended the Dialogue. Participants were schoolchildren, parents, representatives of the local authorities and NGOs. The purpose of the Dialogue was providing an information

campaign in the form of Quiz, It was a great gathering of girls and boys interested in discussions related to democracy and their role in shaping their future. The Democracy Dialogue confirmed that the young generation is very much eager to learn more about democracy, be an active part of the democratic processes ongoing throughout the country, and contribute to development efforts and sustainability of Tajikistan.

- Research Based Proposal Writing and Effective Management of Grants. TOT workshop for the Tajik NGO leaders and civic activists in the frame of Fulbright Specialist Program in cooperation with the Department of Public Affairs of the US Embassy in Dushanbe (July-August, 2018).

- Parliamentary Hearing on State of Civil Society in Tajikistan. Funded by UNDP/TJ

(December 2017-March 2018), it has been the first time an activity of this caliber with participation of deputies of the National Parliament, representatives of the Government, NGOs, and other interested stakeholders at the highest national level.

- Empowering Girls Rights through Eliminating Gender Inequality, Phases I- IV. The project has been implemented in Rudaki and Wahdat Districts of RT through conducting series of roundtable discussions and Girls Rights Fair with participation of young girls, representatives of schools // parents associations and mass media to improve the legal awareness of people and empower the girls rights through eliminating gender inequality..

- Leave No One Behind! Funded by CIVICUS, it was a new initiative of TNGOA to conduct a National Dialogue in Dushanbe to stimulate an inclusive debate on a SDG-2030 by providing an analytical base, inputs and ideas that (a) build a shared global vision on ‘Leave No One Behind’ Initiative, with clear recommendations for governments, civil society and broad stakeholders; (b) amplify the voices of the poor and other marginalized groups in formal negotiation processes; and (c) influence the intergovernmental processes so that they align with the aspirations of civil society for a 2030 Global Development Agenda.

For more details, please visit our website at <http://cso.tj/index.php/en/>



JIVRIでは、私たちの活動を支え、後押しして下さる会員を募集しています。ぜひ皆様の力をお貸してください。会費は、下記の通りです。

会 費 3, 0 0 0 円 (年会費)

入会をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前、住所、電話番号および希望する会員区分(個人会員または賛助会員)のどちらかを記入したメールを送付してください。後日、入会申し込みの確認と会費振り込みの依頼をメールにて差し上げます。

入会申込先 email: member@jivri.org